

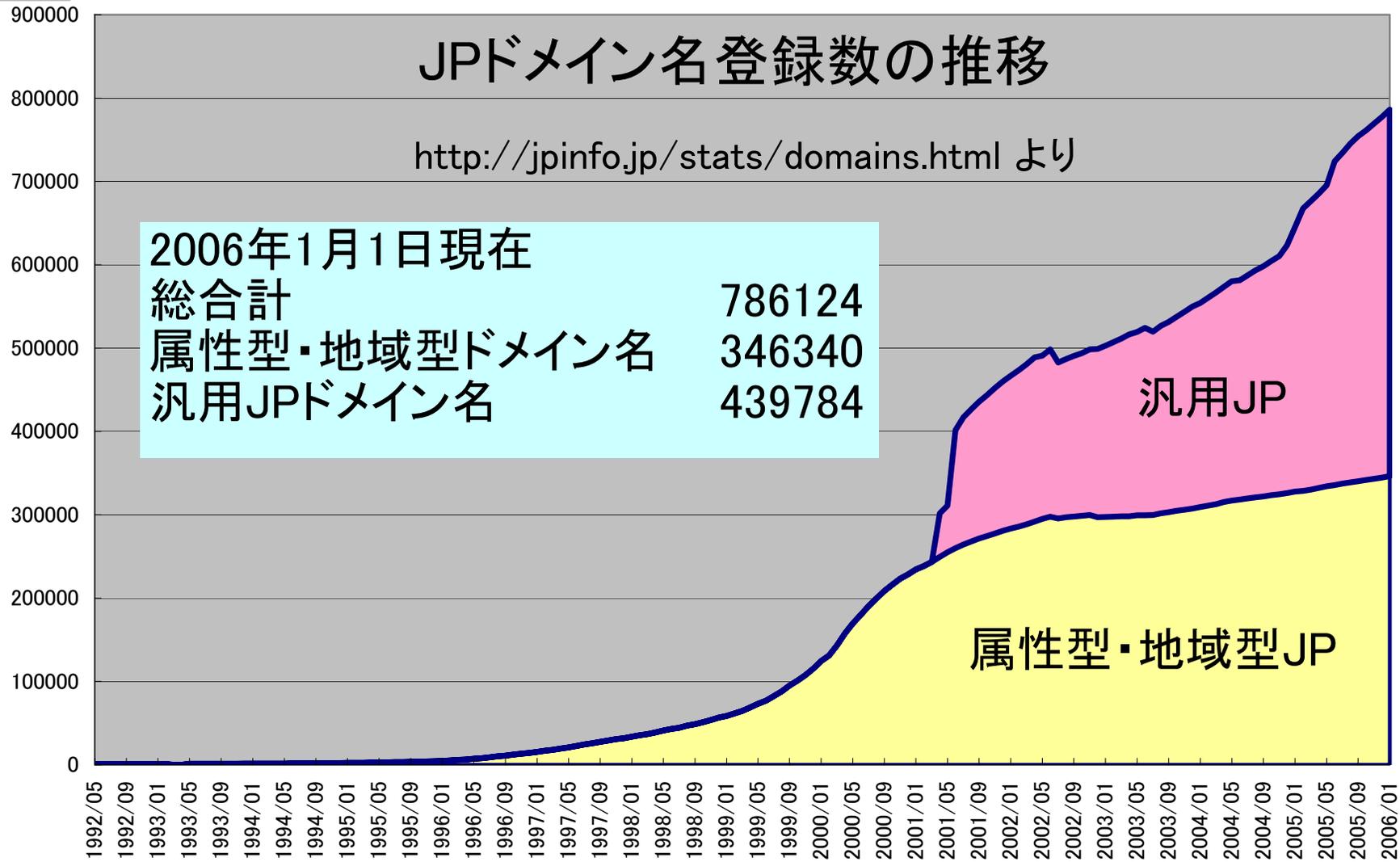
.JP Update

民田雅人 <minmin@jprs.co.jp>

株式会社日本レジストリサービス

2006年1月20日 JANOG17@仙台

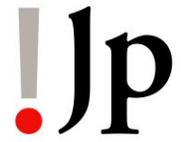
JPドメイン名登録数の推移



2006年1月1日現在
 総合計 786124
 属性型・地域型ドメイン名 346340
 汎用JPドメイン名 439784

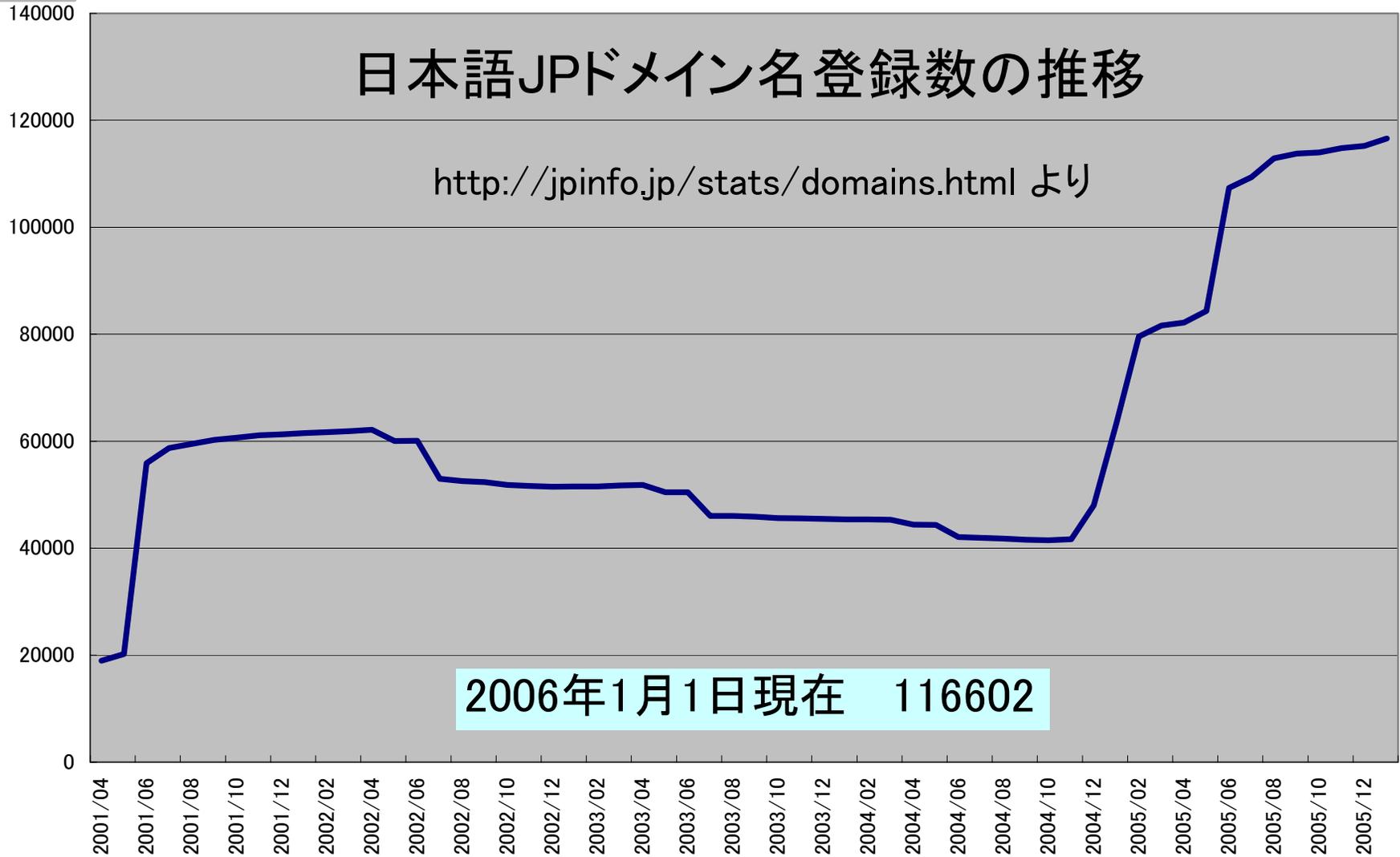
汎用JP

属性型・地域型JP



日本語JPドメイン名登録数の推移

<http://jpinfo.jp/stats/domains.html> より



2006年1月1日現在 116602

JP DNSの更新間隔の短縮

JP DNSの更新間隔が大幅短縮

- 15～30分間隔での更新へ変更
 - ご存知の通り、現在は1日1回(早朝)の更新
 - 夜間・メンテナンス等により例外時間帯あり
- 2006年4月頃開始目標
- JP DNSで運用しているin-addr.arpaドメインの更新間隔は、変更無し

JP DNS更新時間短縮に伴う JP DNSの変更点(1/2)

- JP DNSは、すべてBIND 9へ変更
 - 現在e.dns.jpのみBIND 9、他はBIND 8 (IPv6のJP DNSは現在もBIND 9)
 - BIND 9化は3月中を予定
- "jp"のみのシングルゾーン化
 - 現在は属性型・地域型・汎用で64ゾーン
 - DNSでの扱いの変更であり、申請手続き、分類などは現在のまま

JP DNS更新時間短縮に伴う JP DNSの変更点(2/2)

- JPゾーンのSOAのシリアル値をUNIX epochからの秒数へ変更
 - 現在はYYYYMMDDNNの10桁
- JPゾーンのSOAのminimum値を900秒(=15分)へ短縮予定
 - 現在は86400秒(=1日) だが、実装の関係であまり意味が無い
- 通常のTTLは変更無し(86400秒のまま)

JP DNSのBIND 9化の影響

- JP DNSのXXX.in-addr.arpaが100%グループ無しになる
 - 他の多く(例えばAPNIC)のXXX.in-addr.arpaのDNSサーバの挙動と同じになる
- JP DNSのゾーンでは、逆引きを行うホストのキャッシュサーバがBIND 8(4を含む)の場合、従来より初期アクセスに時間がかかる
 - キャッシュサーバとしてのBIND 8の挙動はJANOG16の「DNSの逆引きはなぜ遅いのか」

DNSサーバーの不適切な設定による 危険性解消に向けた措置

ドメイン名ハイジャックの可能性

- ドメイン名登録者の知らない間に、DNSサーバ運用の組織がなくなり、そのドメインが失効した
 - DNSサーバ名を間違えて登録した等も同様
- 悪意のある者が、DNSサーバのドメイン名を登録すると、ある程度の確率で、元のドメインを乗っ取ることが可能になる

JPレジストリの対応

- 危険な状態におかれているJPドメイン名のDNSサーバを削除
 - 機能していないDNSサーバの削除であり、ドメイン名の運用には影響無し
- 月に1回の処理
 - ドメイン名の削除が月末に行われるため
- JPドメイン名のDNSサーバが対象
 - JPドメイン名以外に属するDNSサーバは対象外

ドメイン名ハイジャックは これだけでは防げない

- DNSサーバがcomやnet、orgなど、JPドメイン名以外だと無力
 - ドメイン名の有効無効を機械的に判断するのが困難
- レジストリだけでは判断が困難な設定の存在
- すでに乗っ取られているものは識別できない
- ドメイン名の登録と運用はあくまでも登録者の責任

最後に

こんなこともはじめました

- WIDEプロジェクトと共同で、
Root DNSサーバの運用を開始
 - 従来WIDEプロジェクトだけで運用していた
m.root-servers.netを、WIDEプロジェクトと
JPRSの2組織で運用する

Thank You and Q & A



<http://jprs.co.jp/>